

高石市と南海電鉄の共創による 高石駅高架下開発プロジェクト



高石市

Takaishi City



‘なんかいね’があふれてる

NANKAI

高石市の概要

○ 人口 56,930人 (生産人口34,091人・59.9%/高齢者人口15,711人・27.6%)

○ 世帯数 26,267世帯 面積 11.3km²

※令和5年2月1日現在

なんば、天王寺まで約20分、
関西国際空港 (JR・南海) まで約30分で
アクセスできるベッドタウン



新大阪駅から東京・博多へ



市域の約半分が臨海コンビナートで
内陸部は密集した市街地
(東西6.1km、南北4.1km)



コンパクトな内陸部に6つの鉄道



関空から
国際線 24カ国・92都市
国内線 17都市 (2019冬期スケジュール)

市域全体が平坦な地勢
(海拔約1m~約20m)

高石市の概要

若年層の定住促進

- ・民間活力を導入した幼保一元の認定こども園推進による“待機児童ゼロ”の達成
- ・子育てウェルカムステーション「ハグッドたかい」開設（遊具メーカー（ポーネルド社）と連携）
- ・市内全ての小中学校耐震化、普通教室・体育館のエアコン整備、学校ICT化推進
- ・中学校給食の導入

(キャッチコピー) たかい、たかい、たかーい市。

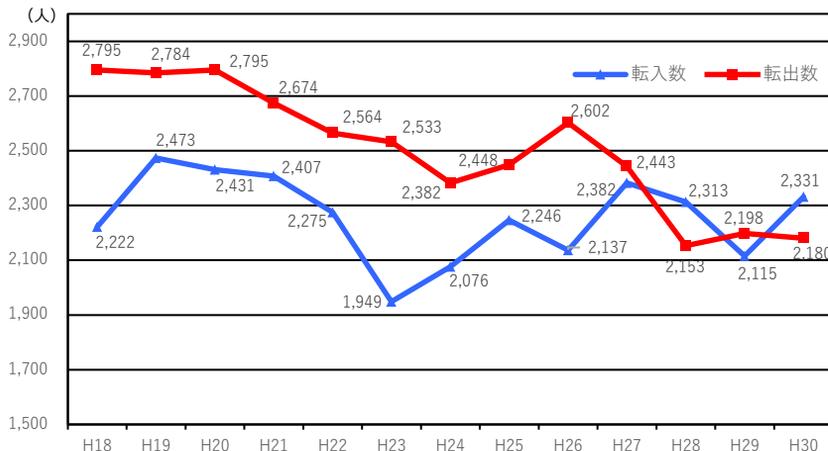


子育てウェルカムステーション「ハグッドたかい」

★子育て世代等の市内転入増

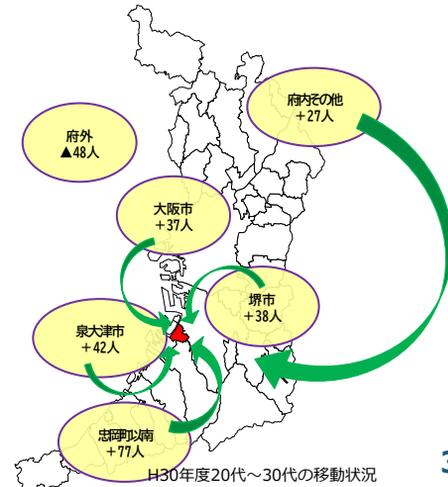
(H26年：465人の転出超過⇒H30年：151人の転入超過)

シティプロモーションとして、南海なんば駅（ターミナル駅）に巨大ポスターを掲示



高石市の20代～30代の転出・転入数の推移

(出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」より)



H30年度20代～30代の移動状況

南海本線・高師浜線連続立体交差事業

[南海本線]

浜寺公園駅～北助松駅 約3.1km

[高師浜線]

羽衣駅～伽羅橋駅 約1.0km

[事業の施行者]

事業主体 : 大阪府

側道工事、用地買収等 : 高石市

鉄道工事 : 南海電鉄

踏切除却数 : 13箇所



令和3年5月22日
南海本線高架化完成



大阪・高石 南海本線高架化完成記念式典・シンポ

「南海本線高架化完成記念式典・シンポジウム」(大阪府高石市主催)が5月22日、大阪府高石市の「アラたかいし」で開催された。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発令中のため無観客で実施。阪口伸六・高石市長が「長年の志願であった南海本線の高架化が完成、多くの関係者のご尽力に感謝する」とあいさつした。また、国土交通省出身で、高石市の副市長経験のある三浦良平・富山市副市長が「新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性について」をテーマに基調講演した。その後「ウイルス・ポストコロナ大阪・関西万博 新たな時代の地方都市のありかた」と題したパネル討論があった。【和田明美】



南海本線高架化完成記念式典・シンポの様子(高石市提供)

ポストコロナの都市へ

駅前活性化に尽力/鉄道高架化の手本

- コーディネーター
堀川伸也 パネルリスト
阪口伸六 三浦良平 和田真治 山谷佳之 渡井敏彦
- 高石市長 富山市副市長(元高石市副市長) 南海電気鉄道株式会社 執行役員まちづくり推進室長 株式会社 代表取締役社長CFO 大阪府都市整備部交通戦略室長

「選ばれる沿線 追求/交流を観光の柱に/泉州全体で連携を」

パネル討論 登壇者



基調講演 三浦良平・富山市副市長 (前国土交通省まちづくり推進課室長)



より「歩きたくなるまち」を

生活の質 向上に期待

生活の質 向上に期待

生活の質 向上に期待

シンポジウムの動画はこちらのQRコードからご覧いただけます

連立事業完成に伴うまちづくりの方向性

南北の広域連携軸

◆ 南海本線高架化に伴うまちづくり

- ・高架下空間に商業施設やにぎわい交流の拠点となる公共施設等を導入

[高石駅周辺地区]

- ・駅前芝生化をはじめウォーカブルなまちづくりを進め、多世代交流の拠点として活性化

[羽衣駅周辺地区]

- ・JR東羽衣駅北用地の利活用について、産官学民による地方創生のまちづくりを進める

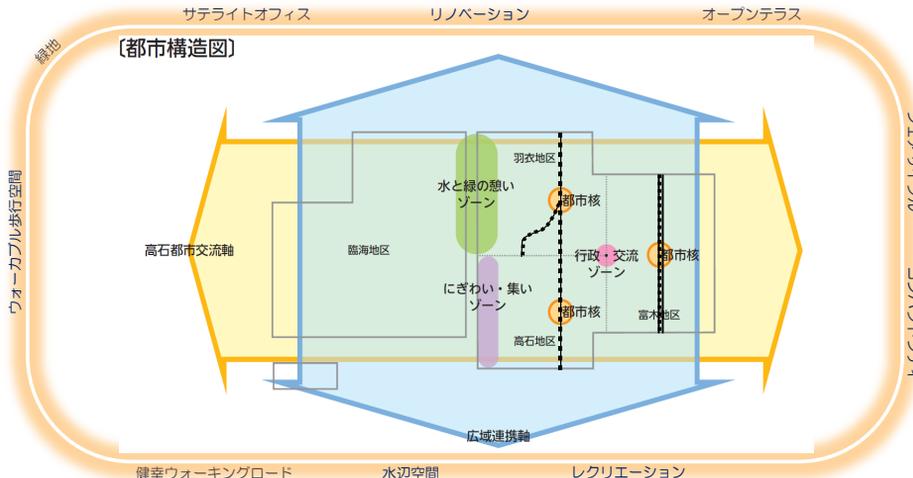
東西の都市交流軸

◆ 高師浜線高架化に伴うまちづくり

- ・浜寺水路周辺等のウォーターフロントの活用
- ・シーサイドフェスティバルや工場夜景ツアー等による地域活性化

◆ 富木駅周辺地区のまちづくり

- ・JR阪和線の立体交差化や鉄道駅のバリアフリー化の検討
- ・市街化調整区域の市街化区域への編入と情報通信基盤を活用した新たなまちづくりの検討



高石駅周辺整備基本構想策定(R3年3月)

高石駅周辺整備基本構想 概要版

1. 基本構想策定の背景と目的

高石駅周辺は長年、平面鉄道により東西のまちが分断されてきました。そのため、土地利用が一体化されず東西にぎわいに隔りが見られ、互いを行き交うには踏切を横断するしかなく、まちの一体性・利便性・安全性の確保が課題とされています。

この課題を解消すべく平成8年に都市計画決定された「南海本線・高師浜線（高石市）連続立体交差事業」は、継続して事業が進められています。これにより、新たに設けられる鉄道高架下の開放された自由通路を通じて自由に東西を行き交うことができるようになり、まちの一体性・利便性・安全性の確保ができるようになります。これに併せて鉄道高架化により生まれる新たな人の流れや高架下空間を最大限に活用し、高石駅を中心として東西のまちが一体となることで、より一層魅力があふれる新しい駅周辺エリアとして生まれ変わることができると考えます。

高石市はウォーカブル推進都市として、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現を目指しています。来訪者が快適に滞在できるひろかれた広場空間を創出し、高石駅を中心に駅前公共施設や周辺商業施設との周遊性をもたすことで、人々が自然と「訪れたいくなる。歩きたくなる。過ごしたくなる。」そう感じられる魅力的な駅周辺エリアを想像し、本基本構想を策定しました。

2. 地域の将来像

～地域の将来像～

『人がつながる、集う場となる、ひろかれた駅前』



人がつながる

これから生まれる新たな人の流れ。「働く人」「学ぶ人」「子育てする人」「憩う人」、そんな人と人が行き交いつながる。つながることからはじまり、つながりが地域を育む。

集う場となる

新しく生まれ変わる駅前。楽しそうに遊ぶ子どもたち。木陰で見守る大人達。気づけば人だにぎわい、まちに元気がみなぎる。「訪れたいくなる」「過ごしたくなる」、何気に通っていたあの場所が目的地になる。

ひろかれた駅前

まちや人々をさえぎるものはない、ひろかれた空間。目の前に見えるものすべてが憩いの場。「今までなかった」「どこにもなかった」、それがこれからの高石駅。

3. まちづくりの基本方針

1. 駅前商業の活性化

高石駅を起点として周辺エリアに周遊性をもたらし、高架下空間や周囲の既存商業施設、並びに東西商店街が結びつき、互いに協働して駅前商業が活性化されることを目標とします。

2. 住みやすいまちづくり

多世代が快適に暮らし、安心して子育てができるよう人にやさしいまちを目指すとともに、住みだくなる・住みつづけたくなるまちづくりを目標とします。

3. 公共空間の再構築

エリアの一体的な利用により、東西の駅前広場や歩行通路を一つの空間として再構築し、来訪者にとって安全・安心して景観に優れるウォーカブルなまちづくりを目標とします。

4. 官民の協働

駅周辺の公共用地と隣接する民間用地が一体となった駅前空間や地域交流拠点を創出し、市民活動の促進や、民間のノウハウを活用したイベントを共催するなど、地域が活性化し連携することを目標とします。

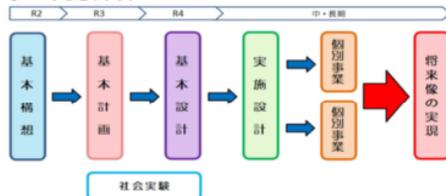
4. 将来像の実現に向けて

将来像の実現のため、市民・事業者・行政が各々役割を持ち、連携・協働してまちづくりに取り組みます。



5. 実現に向けたスケジュール

将来像の実現に向けて、市民・事業者と連携・協働し、高石駅周辺がより良いエリアとなるよう、まちづくりを進めます。



アプラたかいしリニューアル(R3年8月)

8月にリニューアルされたアプラたかいし2階の様子/



アプラたかいし2階のリニューアル

18年がりにリニューアルしたアプラたかいし2階には、ワーキングスペース、勉強、仕事のできるスペースはもちろん、子どもの遊びを見守りながら飲食できるスペースもできました。

リニューアルした2階、3階「ハブウッド」や、4階「市立図書館」を併せて利用することで、子育て世代にも特に利用しやすい空間となります。

駅前広場に臨む好立地を活かした施設交流拠点施設として今回のアプラたかいしリニューアルが、駅周辺エリア全体の魅力向上につながります。



高石駅周辺整備基本構想（イラストはイメージです）

高石駅前の未来に向けて/

居心地が良くてたくさんの人が集う駅前に。

- 官民連携の新たなまちづくり -

問合せ 事業課 ☎(275)6412



人がつながる、集う場となる、ひろがれた駅前

新しく生まれ変わる駅前には、柔らかな子どもも遊び、それを見守る大人も、気づけば人々集わり、元気な姿も開かれた空間をめします。

思わぬ良き、多世代が集うことのできる駅前の将来像の実現に向けて、市民・事業者・行政が各々役割を持ち、連携・協働してまちづくりに取り組んでいくことがこれからは必要です。

高石駅周辺が魅力的なまちへと動き出します

長年に渡り取組みを進めてきた南海本線の高架化が今年の5月に完成。続く8月には、高石駅前複合商業施設「アプラたかいし」の2階がリニューアルされ、魅力的な空間ができました。

今後は、高石駅前広場の再生化や、高架下活用の検討を進めます。魅力ある駅周辺エリアの生まれ変わりにご期待ください。



高石駅東側駅前広場の社会実験(R4年2月)

子供用遊具



売店



ワークショップ



高石駅周辺整備基本計画策定(令和4年3月)

地域の将来像 『人がつながる、集う場となる、ひらかれた駅前』

整備コンセプト 『駅前広場を中心とした、多世代交流の象徴の場づくり』

① 駅東口整備

芝生が広がる広場を整備し、非日常イベントにも対応するような汎用性を高める。

② 駅西口整備

みどりを感じる歩行空間を整備するとともに、高架下と歩行空間をつなぐ滞在空間を創出する。



※ イメージ図は今後の社会情勢、関係機関との調整により変更になる場合があります。



高架下開発の方向性 (案)

■大方針

高石市の意向



- ・子育てに優しい・**圧倒的**なもの
- ・人と**つながる**、**集う**場となる、**開かれた駅前**
- ・アプラ高石、東側芝生広場と連携



南海電鉄の意向



- 沿線活性化(利用者増加)
- 駅前の賑わい創出

■高架下開発のキーワード

①子育てをしたいと思えるまち

- ・子どもたちがのびのび遊べる場所
- ・住んでいて、子育てして、治安が良い。安心感がある

②人々の賑わいとコミュニティの中心となる場所

- ・人々が集まり賑わいが生まれる
- ・各施設で人々が集まる
各施設で人々が関わる

高架下開発の方向性 (案)

高石市



高石市
TAKASHI CITY

- ①子育て世代が集まり、子供が楽しむ、賑わう場所
- ②圧倒的なもの、まずは人が集まる特別な仕掛け
- ③“アプラたかいし”（館内HUGOOD）や新設芝生広場と連携された施設

南海電鉄



- ①現状のマーケットボリューム・トラフィックでは、“アプラたかいし”内店舗及び周辺店舗と競合し、売上が分散するだけで、成立しないことが予想される
- ②圧倒的な集客する施設をつくり、賑わいを創出する。
そのためには、高架下「15%ルール」にはこだわらない。

- ✓ **まずは圧倒的な話題性ある空間・施設づくりが必要**
- ✓ それにより人を集め、商業ポテンシャルを高めることで、
商業ボリュームが拡大し、今後の開発（魅力創造）や収益化が可能になる

⇒ 高石市と南海電鉄の考え・方向性が合致！
共創プロジェクトがスタート(R4年度～)

高架下開発の方向性(案)

■高石市の子育て世代のために

全天候型多世代交流施設と 商業施設が融合したシームレスな空間

を高架下に設置することで、駅前の賑わい活性化を図る



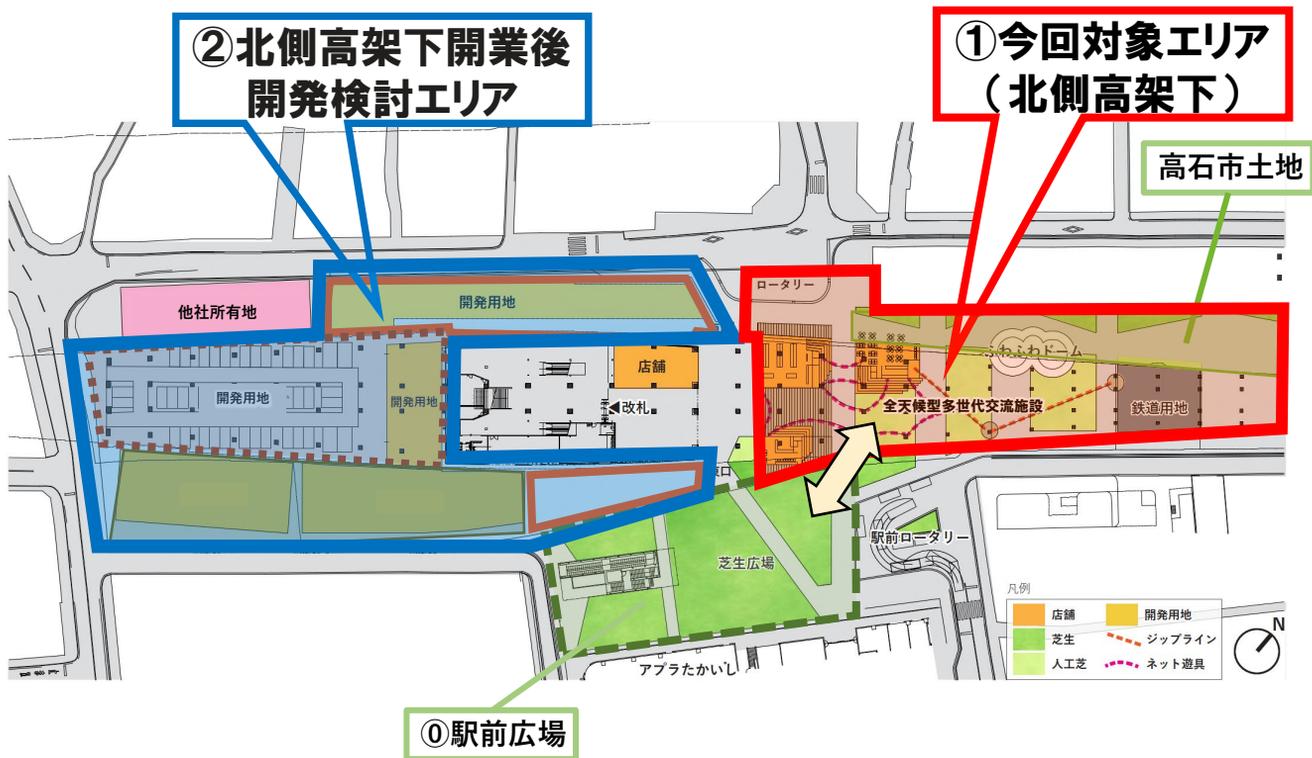
イメージ図



イメージ図

高架下開発の方向性 (案)

■本開発の全体像



高架下開発の方向性(案) ～要旨～

- ① 高石駅改札を出た時の開放的かつ魅力的な広大な空間を生み出す
- ② 高架下空間と東側芝生広場が分断されずシームレスかつ一体的な空間の創出
- ③ ファミリー層をはじめとする市民が誰でも自由に、当エリアを利用することで賑わいが創出され、圧倒的な集客力に繋げる。

⇒上記を実現するため、ハード及びソフト両面で双方協議を深化させる。

⇒高架下は次年度以降活用可能となるため、無利用期間を出来る限り短縮させ、早期開業を目標としたい。



イメージ図



イメージ図

高架下開発で実現したいまちの風景 (案)

①子育てをしたいと思えるまち

■地域の子どもたちが主役の全天候型多世代交流施設

(要素①) 高石になじむ、高石の”顔”となる全天候型施設

- ・一般的な高架下とは一味違った「高石らしさ」を感じられる空間
- ・高石の”顔”として、市民の愛着に繋がる場

(要素②) 地域の子どもたちの関係を結び広げる

- ・子どもたちの交流の中心となることで、友達の輪を拡げられる広場
初めて会う子ども同士と一緒に遊ぶ、子どもをきっかけに親同士の交流も誘発できる場



イメージ図



イメージ図

高架下開発で実現したいまちの風景 (案)

②人々の賑わいとコミュニティの中心となる場所

■子育て世代の交流の場となる商業施設

(要素①) 高石の”素の食”を提供するまちの食堂

- ・高石ならではのメニューを提供できる、**まちに馴染んだ**レストラン

(要素②) 子育て世代の家庭（親と子）をつなぐ拠点

- ・全天候型施設で遊び疲れた親子や近所のママトモたちが**気軽にふらっと立ち寄れる、立ち寄りたくなる**場



イメージ図



イメージ図



高石市
TAKAISHI CITY

×



NANKAI

①子育てをしたいと思えるまち

②人々の賑わいとコミュニティの
中心となる場所



全天候型
多世代交流施設

芝生広場

地域との連携

人でのぎわう
店舗

各施設の連動

「こんなところで子育てしたい！住みたい！」
と思ってもらえるまちづくりを、高石市と南海電鉄の共創で進めます！

ご清聴ありがとうございました。